



【自然部門】

国内外の生物・地学関連資料の収集・保管・研究・展示を行っています。特に、昆虫・植物・鳥類に関する資料が充実しています。



現在、常設展では「ステイ・ホーム～水戸の鳥の巣～」というテーマで、市立博物館が保管する鳥の巣のうち、25点を展示しています。



第5回

鳥の巣

「ステイ・ホーム」(家で過ごす)という考え方が広がり、巣ごもりをされている方も多いのではないのでしょうか。今回はそれにちなんで、鳥の巣について紹介します。

問合せ／市立博物館(☎226-6521)

自然部門の収蔵庫には、鳥や昆虫などの標本とともに、約100点の鳥の巣が保管されています。これは、市町村立の博物館としては、充実した収蔵量だと思えます。多くの鳥は、子育てを終えると、巣を捨てて飛び去ってしまいます。つまり、鳥の巣は子育てのためだけに作られ、短期間で廃棄されるものなのです。巣を収集した先輩学芸員は、この習性を利用して、子育てをしている鳥の巣をあらかじめチェックする↓子育てが終わったことを確認する↓状態の良い巣を回収する、という作業を何度も繰返したのだそうです。

鳥の巣というと、小枝や枯れ草をお碗状にまとめた形をイメージするかもしれませんが。例えば、市の鳥、ハクセキレイはそのような巣を作ります。しかし、実は鳥の種類によって、皿形・ボール形・カップ形など、巣の形はさまざまです。クモの糸を接着剤代わりに使う鳥や、コケを使って巣のまわりをカモフラージュする鳥もいます。まちなかでは、ビニールひもも人気の材料です。また、ツバメの巣は泥が主体です。ちなみに、ツバメは、私たちがよく目にする場所に巣を作りますが、それにも理由があり、わざと人がいる場所の近くに巣を作ること、外敵から卵やヒナを守っているのです。

形も、素材も、場所もさまざま。鳥の巣は想像以上にバリエーション豊かで、多様性にあふれています。そんな鳥の巣を、ぜひ博物館でじっくりとご覧ください。

(水戸市立博物館自然部門学芸員 関口慶久)



①キツツキ(アオゲラ)の巣を半分に分ったもの。木の中の巣の様子が分かる珍しい標本です ②ウグイスの巣。ボール形でとても軽く、まるでアート作品のようです ③カルガモの巣。水辺の草むらなどに皿形の巣を作ります ④メジロの巣。不安定な枝先に、かわいらしいカップ形の巣を器用に作ります。

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-4-1
ホームページ▶<https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・224・5188
☎029・224・5188 kounou@city.mito.jg.jp